

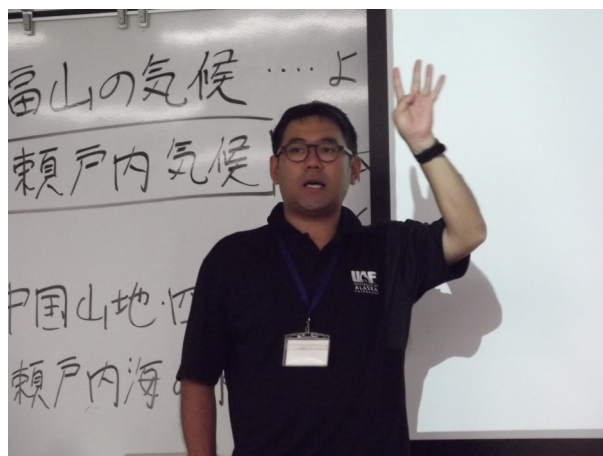
## 地域学（福山学）

担当教員： 西川 龍也、清原 昭子、八幡 浩二、澤田 結基

履修年次・区分： 1・2・3年（共通—教養—環境と生活）

授業のテーマ： 4年間学び生活する福山というまちを対象に、それを時間軸および空間軸の視点で、その変容および要因を講義する。その上で、福山というまちの特色をサステナビリティの視点から考察する。これらを通じて、地域とその変容を見る視点を養う。

この日の授業内容：①福山の自然環境と災害 ②福山の経済



①4人の担当教員によるオムニバス形式の授業です。澤田先生の回では、福山の自然地理の特徴を学びます。「鞆の浦はかつて潮待ちの港として栄えました。瀬戸内海の真ん中に位置する鞆は潮流の境界となるため、船は流れに乗って鞆に入り、流れに乗って鞆から出発していました。また、島と海がつくる景観の美しさが好まれ、人々は鞆を宿泊地としたのです。」風景の保護を目的として制定されている日本の国立公園のうち、瀬戸内海国立公園は最大の面積を有します。そして、世界初の「海」の国立公園でもあります。



②清原先生の回は福山の経済を学びます。福山市と周辺市町を合わせた備後圏域では、全国や周辺都市圏と比較しても、人口減と高齢化が急速に進んでいくと予測されています。「特に人口の多い福山市の減り方のインパクトが大きいです。こういうことを視野に入れて、経済を考えていく必要があります。」生産・雇用の面、消費・生活の面から地域経済を分析していきますが、「そのポイントは、人々が幸せに暮らせるか、です。」

(2016年6月～7月取材)